

安全手段がまずいことに!

2014年6月

写真1は、冬に雪の量が多い米国北部の町にある消火栓を示している。写真2に示されているように、消火栓の左側に固定されている垂直のスチール棒は消火栓がある場所を示すためのものである。棒の先端に旗が取り付けられているので、消防士は消火栓が雪に覆われていても見つけ出すことができる。同時に、旗が消火栓のある場所の目印となって、除雪機による損傷を極力減らすように、更に消火栓への接近を妨げるような場所に人々が駐車しないようにしている。旗は消火栓が雪に埋まった場合に、それが場所を人々に知らせるための安全手段である。

明らかにこの安全手段は問題を生みだしている。金属棒はバルブハンドルの間を通して取付られている。初めにその棒を取り外さなければバルブを開けることができない! また、その棒は消火栓レンチ(スパナ)の使用に障害となる可能性がある。棒と旗は取り除くことはできるが、おそらく緊急事態においては、貴重な時間を奪うことにもなる。

写真1は、Beacon 2004年10月号に掲載された写真3に似ている。写真3では、自然が、成長している木の枝の形によって、消火栓の操作を困難にしている。写真1では人間が消火栓バルブを通して棒と旗を取り付けており、同じ結果になっている。



知っていますか?

- 消火栓に付けられた旗は、消火栓を除雪機による被害から守り、消火栓へのアクセスを邪魔しないよう人々に知らせ、更に雪に埋まっても消防士が見つけ易くするための、安全手段と言える。しかし、それを不適切に取り付けたために、消火栓のバルブを素早く開けるのが難しくなった。その結果、安全手段が新たな、おそらくより深刻な、安全上の問題を生み出した!
- どんな安全手段でも新たな危険を生み出し得る。機器の変更は、それが安全性を改善しようとするものでも、新たな危険を生み出し、すでに存在する危険をさらに深刻にする可能性がある。もし安全手段を適切に取り付けなければこれは正しく真実となる。

あなたにできることは?

- 新しく安全手段を加えることを含め、どんなシステムの変更も、プラントの変更管理(MOC)の手順を使って審査しなければならない変更である。
- 新しい安全手段のMOC審査を行う時は、その変更が新たな危険をもたらす可能性を必ず考えること。
- 変更を審査した後は、それが正しく実施され、プラントのスタートアップ前の安全審査(PSSR)手順を使って運転の準備ができているかを確認すること。
- 変更が緊急対応担当に影響を与える場合は、MOCやPSSRに彼らも入ってもらうこと。

全ての変更を精査すること - たとえそれらが安全のためでも!